

○当ファンドの仕組みは次のとおりです。

商品分類	追加型投信／国内／株式／特殊型
信託期間	約5年（当初設定日：2013年2月14日 償還2018年1月15日）
主投資対象	親投資信託である「しんきん短期国内債券マザーファンド」（以下「マザーファンド」といいます。）の受益証券を主要投資対象とし、日経平均株価先物取引を主要取引対象とします。なお、直接公社債等に投資することがあります。
運用方針	①運用にあたっては、主としてマザーファンドの受益証券への投資を通じて、我が国の短期公社債、短期金融資産等に投資を行うとともに、日経平均株価先物取引の売建てを行います。 ②日経平均株価先物取引の売建ての額は、原則として投資信託財産の純資産総額と同程度となるように調整を行います。 ③短期公社債の組入れにあたっては、原則、残存期間1年以内のものとし、取得時において、いずれかの信用格付業者等からA格相当以上の信用格付を得ている銘柄に限定します。 ④資金動向あるいは市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。
主投資制限	①株式への投資割合には制限を設けません。 ②デリバティブ取引の利用はヘッジ目的に限定しません。 ③外貨建資産への投資は行いません。
収益分配方針	毎決算時に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。 ①分配対象額は、経費控除後の繰越分を含めた利子・配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。 ②分配金額は、委託者が基準価額水準等を勘案して決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合は、分配を行わないこともあります。

運用報告書(全体版)

しんきん 225ベア・ファンド

決算日

（第3期：2016年1月13日）


受益者のみなさまへ

平素は格別のお引立てに預かり厚く御礼申し上げます。

さて、ご購入いただいております「しんきん225ベア・ファンド」は2016年1月13日に第3期の決算を行いました。

ここに、期中の運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

 しんきんアセットマネジメント投信株式会社

〒104-0031 東京都中央区京橋3丁目8番1号

<http://www.skam.co.jp>

■運用報告書に関しては、下記にお問い合わせください。

しんきんアセットマネジメント投信株式会社
 <コールセンター>  0120-781812
 （土日、休日を除く）携帯電話・PHSからは03-5524-8181
 9:00~17:00

本資料は投資信託の運用状況を開示するためのものであり、ファンドの勧誘を目的とするものではありません。

目 次

◇しんきん225ベア・ファンド	頁
設定以来の運用実績	1
当期中の基準価額と市況等の推移	1
第3期の運用経過等	2
1万口当たりの費用明細	5
売買及び取引の状況	5
利害関係人との取引状況等	6
組入資産の明細	6
投資信託財産の構成	6
資産、負債、元本及び基準価額の状況	7
損益の状況	7
分配金のお知らせ	7
◇参考情報	
親投資信託の組入資産の明細	8
◇親投資信託の運用報告書	
しんきん短期国内債券マザーファンド	10

当ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行います。ファミリーファンド方式とは、受益者からの資金をまとめてベビーファンドとし、その資金を主としてマザーファンドの受益証券に投資して、実質的な運用をマザーファンドで行う仕組みです。

○設定以来の運用実績

決算期	基準価額 (分配落)	標準価額		日経平均株価(日経225) (参考指数)		株先物比率	債券組入比率	純資産額
		税込 分配	み 金 騰 落	期 騰 落	中 率			
(設定日)	円	円	%	円	%	%	%	百万円
2013年2月14日	10,000	—	—	11,251.41	—	—	—	500
1期(2014年1月14日)	6,706	0	△32.9	15,422.40	37.1	△97.7	64.6	378
2期(2015年1月13日)	5,673	0	△15.4	17,087.71	10.8	△100.9	78.8	372
3期(2016年1月13日)	5,100	0	△10.1	17,715.63	3.7	△100.5	72.1	369

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注2) 当ファンドは「しんきん短期国内債券マザーファンド」(親投資信託)を組み入れますので、「債券組入比率」は実質比率を記載しています。

(注3) 株式先物比率=買建比率-売建比率。

(注4) 当初設定時の基準価額は当初元本(1万円当たり10,000円)として記載しています。

(注5) 当初設定時の日経平均株価(日経225)の値は、前営業日終値を表示しています。

(注6) 当ファンドは、日経平均株価先物取引を活用し、日々の基準価額の値動きが日経平均株価(日経225)の値動きのおおむね逆となるよう株式先物の売建てを行っています。日経平均株価(日経225)は当ファンドの参考指数であり、ベンチマークではありません。(以下同じ。)

○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額	標準価額		日経平均株価(日経225) (参考指数)		株先物比率	債券組入比率
		騰落率	騰落率	騰落率	騰落率		
(期首)	円	%	円	%	%	%	%
2015年1月13日	5,673	—	17,087.71	—	△100.9	78.8	
1月末	5,477	△3.5	17,674.39	3.4	△100.7	80.1	
2月末	5,133	△9.5	18,797.94	10.0	△104.0	76.3	
3月末	4,983	△12.2	19,206.99	12.4	△99.8	75.1	
4月末	4,896	△13.7	19,520.01	14.2	△99.4	73.1	
5月末	4,639	△18.2	20,563.15	20.3	△101.0	73.9	
6月末	4,697	△17.2	20,235.73	18.4	△100.2	68.7	
7月末	4,601	△18.9	20,585.24	20.5	△98.7	83.2	
8月末	4,967	△12.4	18,890.48	10.6	△100.4	83.5	
9月末	5,278	△7.0	17,388.15	1.8	△103.9	72.8	
10月末	4,785	△15.7	19,083.10	11.7	△102.3	76.9	
11月末	4,615	△18.6	19,747.47	15.6	△99.0	71.7	
12月末	4,765	△16.0	19,033.71	11.4	△102.8	64.0	
(期末)							
2016年1月13日	5,100	△10.1	17,715.63	3.7	△100.5	72.1	

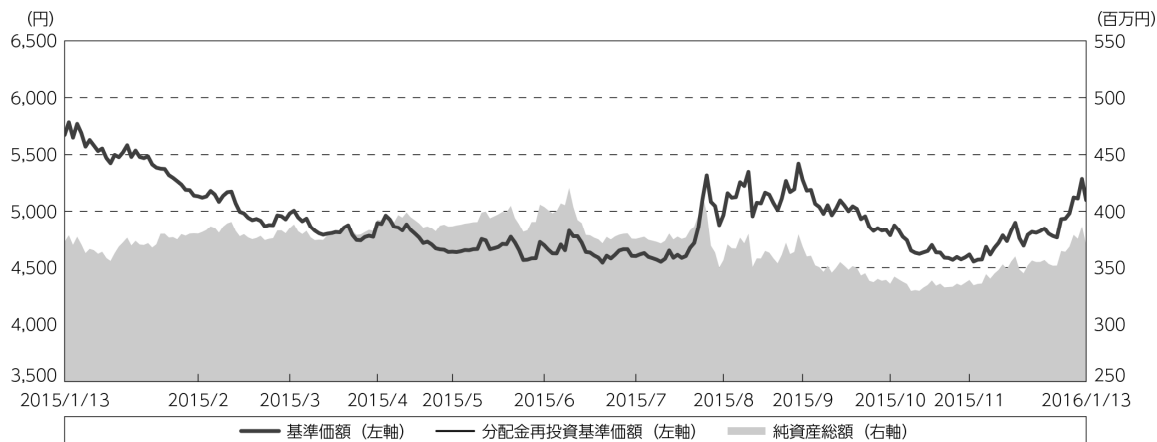
(注1) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比です。

(注2) 株式先物比率=買建比率-売建比率。

※「日経平均株価(日経平均)」は、株式会社日本経済新聞社によって独自に開発された手法によって、算出される著作物であり、株式会社日本経済新聞社は、日経平均自体および日経平均を算定する手法に対して、著作権その他一切の知的財産権を有しています。「日経」および「日経平均」を示す標章に関する商標権その他の知的財産権は、全て株式会社日本経済新聞社に帰属しています。「しんきん2.25ベア・ファンド」は、委託会社の責任のもとで運用されるものであり、株式会社日本経済新聞社は、その運用および受益権の取引等に関して一切の責任を負いません。株式会社日本経済新聞社は、日経平均を継続的に公表する義務を負うものではなく、公表の誤謬、遅延または中断に関して、責任を負いません。株式会社日本経済新聞社は、日経平均の構成銘柄、計算方法、その他日経平均の内容を変える権利および公表を停止する権利を有しています。

○第3期の運用経過等（2015年1月14日～2016年1月13日）

＜当期中の基準価額等の推移＞



(注1) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 分配金再投資基準価額は、期首(2015年1月13日)の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

(期初と期末の比較)

当期の基準価額は前決算期末の5,673円から、日経平均株価の上昇に伴い値下がりし、5,100円で期末を迎えました。なお、期中の高値は5,784円(2015年1月14日現在)で、安値は4,543円(2015年7月21日現在)となりました。

<投資環境について>

(株式市況)

当期の日経平均株価は、17,087.71円(2015年1月13日現在)から始まり、翌日に16,795.96円の期中安値をつけた後、20,868.03円(2015年6月24日現在)の期中高値をつけましたが、期末は17,715.63円(2016年1月13日現在)となり、期を通じて3.67%の上昇となりました。

2015年1月の株式市場は、欧州中央銀行の金融緩和政策や、ギリシャ不安の後退などを受け、日経平均株価は3.43%上昇しました。

2015年2月の株式市場は、為替が円安ドル高に進んだことから、輸出企業の業績改善や国内景気の回復期待などを背景に、日経平均株価は6.36%上昇しました。

2015年3月の株式市場は、企業業績回復期待という前月からの流れを引き継ぎ、日経平均株価は2.18%上昇しました。

2015年4月の株式市場は、中国の追加金融緩和期待などを好感した底堅い動きとなり、日経平均株価は1.63%上昇しました。

2015年5月の株式市場は、企業決算発表の良好な内容に反応し、日経平均株価は5.34%上昇しました。

2015年6月の株式市場は、黒田日銀総裁の円安けん制発言や、ギリシャ不安の再燃などが悪材料となり、日経平均株価は1.59%下落しました。

2015年7月の株式市場は、国内景気の堅調が確認され、日経平均株価は1.73%上昇しました。

2015年8月の株式市場は、中国発の世界景気先行き懸念と中国株の急落によって、世界的な株安連鎖となり、日経平均株価は8.23%下落しました。

2015年9月の株式市場は、為替市場の円高が警戒されたことに加え、ドイツの大手自動車メーカーの不正問題を受け、日経平均株価は7.95%下落しました。

2015年10月の株式市場は、中国の経済対策や海外株式の上昇などを背景に、日経平均株価は9.75%上昇しました。

2015年11月の株式市場は、郵政3社上場が順調な滑り出しとなったことや、米国景気の堅調のもと、日経平均株価は3.48%上昇しました。

2015年12月の株式市場は、中国など新興国景気の先行き不透明感がくすぶる中、米国の利上げが実施され、日経平均株価は3.61%下落しました。

当ファンドの決算日(2016年1月13日)までの2016年1月の株式市場は、原油価格が急落する中、地政学的リスクなどへの懸念から、投資家の不安心理が高まり、日経平均株価は6.92%下落しました。結局、当期末となる1月13日の日経平均株価は17,715.63円で終わりました。



<運用概況>

(基本方針)

当ファンドは、日経平均株価先物取引を活用し、日々の基準価額の動きが日経平均株価の値動きのおおむね逆になることを目指して運用を行いました。

(組入銘柄)

ファンドの基本方針に従い、日経平均株価先物取引の売建てを行いました。また、余裕資金の運用については、しんきん短期国内債券マザーファンドの組入れを行いました。

(運用経過)

当期の売買につきましては、設定・解約に応じた日経平均株価先物の売買のほか、日々の基準価額が日経平均株価のおおむね逆の値動きとなるよう売建枚数の調整を行いました。

(参考指数との比較)

当ファンドは、日経平均株価先物の売建てを純資産総額と同程度となるように調整し、日々の基準価額の値動きが日経平均株価指数の値動きのおおむね逆となることを目指しています。当期においては、日経平均株価が3.7%上昇する一方で、当ファンドの基準価額は10.1%の下落となり、日経平均株価の上昇率以上に下落する結果となりました。日経平均株価が大きく上昇・下落する中、純資産総額と同程度となるように、日経平均株価先物の売建て額を調整するため、資金増減を伴わない先物の売買が発生した（日経平均株価が上昇すると純資産が減少するため先物を買戻し、日経平均株価が下落すると純資産が増加するため先物を売建て）ことがマイナスに作用しました。

<収益分配方針>

当ファンドでは、分配対象額を経費控除後の繰越分を含めた利子・配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額としていますが、当期については、株式市場の上昇により売買損益（評価益を含む）がマイナスになったこと、利子・配当等収益が少額であったこと等を勘案して、収益分配を見送りました。なお、収益分配に充てなかった部分につきましては、信託財産中に留保し運用の基本方針に基づき運用を行います。

分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項 目	第3期
	2015年1月14日～ 2016年1月13日
当期分配金 (対基準価額比率)	— —%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	0

(注1) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注2) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

<今後の運用方針>

引き続き運用の基本方針に従い、日々の基準価額の値動きが日経平均株価の値動きのおおむね逆になることを目指して、日経平均株価先物取引の売建てを調整していきます。余裕資金の運用については、しんきん短期国内債券マザーファンドの組入れを行います。

○1万口当たりの費用明細

(2015年1月14日～2016年1月13日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円	%	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
(投 信 会 社)	(21)	(0.432)	委託した資金の運用の対価
(販 売 会 社)	(29)	(0.594)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(3)	(0.054)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料	10	0.195	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数
(先 物 ・ オ プ シ ョ ン)	(10)	(0.195)	売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
合 計	63	1.275	
期中の平均基準価額は、4,903円です。			

(注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入しています。

(注3) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数点以下第3位未満は四捨五入しています。

○売買及び取引の状況

(2015年1月14日～2016年1月13日)

先物取引の銘柄別取引・残高状況

銘 柄 別			買 建		売 建		当 期 末 評 価 額		
			新 規 決 済 額	規 決 済 額	新 規 決 済 額	規 決 済 額	買 建 額	売 建 額	評 損 額
国 内	株 式 先 物 取 引	日 経 2 2 5	百 万 円	百 万 円	百 万 円	百 万 円	百 万 円	百 万 円	百 万 円
			—	—	1,895	1,930	—	371	33

(注) 単位未満は切り捨て。

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘 柄	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
しんきん短期国内債券マザーファンド	89,587	90,000	69,681	70,000

(注) 単位未満は切り捨て。

○利害関係人との取引状況等

(2015年1月14日～2016年1月13日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○組入資産の明細

(2016年1月13日現在)

先物取引の銘柄別期末残高

銘	柄	別	当 期		末
			買 建 額	売 建 額	額
国内	株式先物取引	日経225	百万円 -		百万円 371

(注1) 単位未満は切り捨て。

(注2) -印は組み入れなし。

親投資信託残高

銘	柄	期首(前期末)	当 期		末
		口 数	口 数	評 価 額	額
しんきん短期国内債券マザーファンド		千口 298,947	千口 318,854	千円 320,288	千円 320,288

(注) 口数・評価額の単位未満は切り捨て。

○投資信託財産の構成

(2016年1月13日現在)

項 目	当 期	末
	評 価 額	比 率
しんきん短期国内債券マザーファンド	千円 320,288	% 84.9
コール・ローン等、その他	56,811	15.1
投資信託財産総額	377,099	100.0

(注) 評価額の単位未満は切り捨て。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2016年1月13日現在)

項 目	当 期 末	円
(A) 資産	376,447,770	
コール・ローン等	55,743,606	
しんきん短期国内債券マザーファンド(評価額)	320,288,989	
未収入金	35,649,160	
未収利息	15	
差入委託証拠金	△ 35,234,000	
(B) 負債	6,621,615	
未払解約金	4,673,898	
未払信託報酬	1,947,717	
(C) 純資産総額(A-B)	369,826,155	
元本	725,153,229	
次期繰越損益金	△355,327,074	
(D) 受益権総口数	725,153,229口	
1万円当たり基準価額(C/D)	5,100円	

(注1) 当ファンドの期首元本額は657,004,069円、期中追加設定元本額は346,641,934円、期中一部解約元本額は278,492,774円です。

(注2) 1口当たり純資産額は0.5100円です。

○損益の状況 (2015年1月14日～2016年1月13日)

項 目	当 期	円
(A) 配当等収益	5,825	
受取利息	5,825	
(B) 有価証券売買損益	△ 30,658	
売買益	3,419	
売買損	△ 34,077	
(C) 先物取引等取引損益	△ 17,850,497	
取引益	81,509,586	
取引損	△ 99,360,083	
(D) 信託報酬等	△ 4,001,694	
(E) 当期損益金(A+B+C+D)	△ 21,877,024	
(F) 前期繰越損益金	△136,857,619	
(G) 追加信託差損益金	△196,592,431	
(配当等相当額)	(3,743)	
(売買損益相当額)	(△196,596,174)	
(H) 計(E+F+G)	△355,327,074	
(I) 収益分配金	0	
次期繰越損益金(H+I)	△355,327,074	
追加信託差損益金	△196,592,431	
(配当等相当額)	(26,777)	
(売買損益相当額)	(△196,619,208)	
繰越損益金	△158,734,643	

(注1) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益および(C)先物取引等取引損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 損益の状況の中で(D)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注3) 損益の状況の中で(G)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注4) 計算期間末における費用控除後の配当等収益(0.0円)、費用控除後の有価証券等損益額(0.0円)、および信託約款に規定する収益調整金(26,777円)より分配対象収益は26,777円(10,000口当たり0.36円)ですが、当期に分配した金額はありません。

○分配金のお知らせ

1万円当たり分配金(税込み)	0円
----------------	----

＜しんきん短期国内債券マザーファンド＞

下記は、しんきん短期国内債券マザーファンド全体(31,543,416千口)の内容です。

国内公社債

(A)国内(邦貨建)公社債 種類別開示

区 分	当 期 末						
	額 面 金 額	評 価 額	組 入 比 率	うちBB格以下 組 入 比 率	残存期間別組入比率		
					5年以上	2年以上	2年未満
	千円	千円	%	%	%	%	%
国債証券	19,220,000	19,273,295	60.8	—	—	—	60.8
地方債証券	4,472,000	4,536,377	14.3	—	—	—	14.3
	(4,472,000)	(4,536,377)	(14.3)	(—)	(—)	(—)	(14.3)
特殊債券 (除く金融債)	2,541,000	2,581,526	8.1	—	—	—	8.1
	(2,541,000)	(2,581,526)	(8.1)	(—)	(—)	(—)	(8.1)
合 計	26,233,000	26,391,198	83.3	—	—	—	83.3
	(7,013,000)	(7,117,903)	(22.5)	(—)	(—)	(—)	(22.5)

(注1) ()内は非上場債で内書きです。

(注2) 組入比率は、このファンドが組み入れている親投資信託の純資産総額に対する評価額の割合。

(注3) 単位未満は切り捨て。

(注4) 一印は組み入れなし。

(注5) 評価については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータを入手しています。

(B)国内(邦貨建)公社債 銘柄別開示

銘柄	当 期 末			
	利 率	額 面 金 額	評 価 額	償 還 年 月 日
国債証券	%	千円	千円	
第336回利付国債(2年)	0.1	1,500,000	1,500,000	2016/1/15
第337回利付国債(2年)	0.1	2,000,000	2,000,220	2016/2/15
第339回利付国債(2年)	0.1	300,000	300,102	2016/4/15
第343回利付国債(2年)	0.1	1,000,000	1,000,810	2016/8/15
第96回利付国債(5年)	0.5	420,000	420,403	2016/3/20
第98回利付国債(5年)	0.3	1,000,000	1,001,460	2016/6/20
第99回利付国債(5年)	0.4	4,000,000	4,012,000	2016/9/20
第100回利付国債(5年)	0.3	3,000,000	3,006,960	2016/9/20
第101回利付国債(5年)	0.4	2,000,000	2,008,280	2016/12/20
第102回利付国債(5年)	0.3	2,000,000	2,006,420	2016/12/20
第280回利付国債(10年)	1.9	2,000,000	2,016,640	2016/6/20
小 計		19,220,000	19,273,295	
地方債証券				
第44回共同発行市場公募地方債	1.8	3,000,000	3,044,310	2016/11/25
第46回共同発行市場公募地方債	1.8	300,000	305,283	2017/1/25
平成23年度第1回奈良県公募公債	0.37	342,000	342,865	2016/11/30
平成18年度第3回横浜市公募公債	1.87	830,000	843,919	2016/12/20
小 計		4,472,000	4,536,377	
特殊債券(除く金融債)				
第193回政府保証預金保険機構債	0.2	500,000	500,900	2017/10/20
第16回政府保証日本政策投資銀行債券	1.8	600,000	611,526	2017/2/28
第27回政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	1.8	1,057,000	1,077,304	2017/2/28
第874回政府保証公営企業債券	1.7	384,000	391,795	2017/4/19
小 計		2,541,000	2,581,526	
合 計		26,233,000	26,391,198	

(注) 額面・評価額の単位未満は切り捨て。

運用報告書

親投資信託

しんきん短期国内債券マザーファンド

第6期

(決算日：2015年8月13日)

しんきん短期国内債券マザーファンドの第6期にかかる運用状況をご報告申し上げます。

○当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	親投資信託
信託期間	無期限
主要投資対象	わが国の短期公社債および短期金融商品を主要投資対象とします。
運用方針	<p>①主としてわが国の短期公社債および短期金融商品を中心に投資を行い、わが国の無担保コール（オーバーナイト物）をベンチマークとし、これを上回る運用成果を目指します。</p> <p>②短期公社債の組入れにあたっては、原則、残存期間1年以内のものとし、取得時において、いずれかの信用格付業者等からA格相当以上の信用格付けを得ている銘柄に限定します。</p> <p>③有価証券等の価格変動リスクを回避するため、国内において行われる有価証券先物取引、有価証券指数等先物取引、有価証券オプション取引、金利にかかる先物取引および金利にかかるオプション取引ならびに外国の市場におけるわが国の有価証券先物取引、有価証券指数等先物取引、有価証券オプション取引、金利にかかる先物取引および金利にかかるオプション取引と類似の取引（以下「有価証券先物取引等」といいます。）を行うことができます。</p> <p>④資金動向あるいは市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。</p>
投資制限	<p>①株式への投資は行いません。</p> <p>②公社債および短期金融資産への投資割合には制限を設けません。</p> <p>③同一銘柄の転換社債、ならびに新株予約権付社債のうち会社法第236条第1項第3号の財産が当該新株予約権付社債についての社債であって当該社債と当該新株予約権がそれぞれ単独で存在し得ないことをあらかじめ明確にしているもの（以下会社法施行前の旧商法第341条ノ3第1項第7号および第8号の定めがある新株予約権付社債を含め「転換社債型新株予約権付社債」といいます。）への投資割合は、投資信託財産の純資産総額の10%以下とします。</p> <p>④投資信託証券への投資割合は、投資信託財産の純資産総額の5%以下とします。</p> <p>⑤外貨建資産への投資は行いません。</p>

○最近5期の運用実績

決算期	基準価額		無担保コール (オーバーナイト物) (ベンチマーク)		債券 組入比率	債券 先物比率	純資産 総額
	期騰	落率	期騰	落率			
	円	%		%	%	%	百万円
2期(2011年8月15日)	10,021	0.1	10,018	0.1	74.5	—	24,440
3期(2012年8月13日)	10,030	0.1	10,026	0.1	83.0	—	27,718
4期(2013年8月13日)	10,039	0.1	10,034	0.1	82.4	—	4,735
5期(2014年8月13日)	10,044	0.0	10,041	0.1	91.0	—	25,167
6期(2015年8月13日)	10,046	0.0	10,048	0.1	97.5	—	19,316

(注1) 債券先物比率=買建比率-売建比率。

(注2) ベンチマークは、無担保コール(オーバーナイト物)に元利金(税引前)を毎営業日に全額再投資したものを設定日の前日を10,000として算出しています。

○当期中の基準価額と市況等の推移

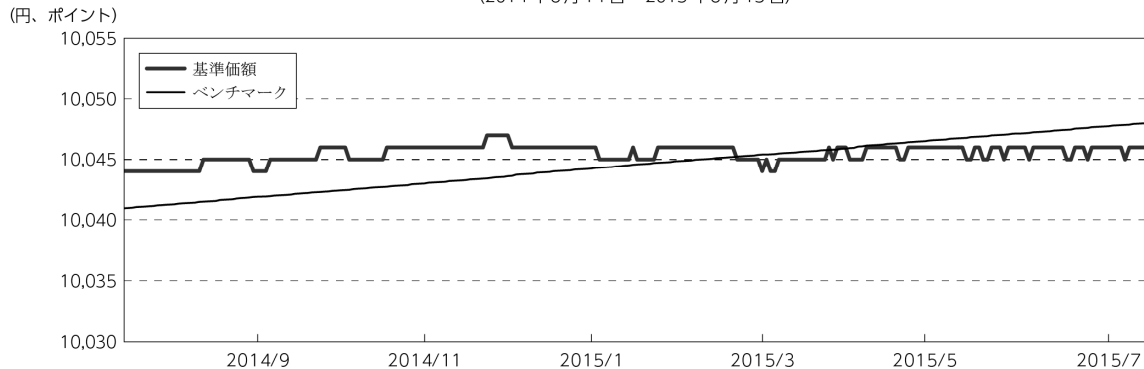
年月日	基準価額		無担保コール (オーバーナイト物) (ベンチマーク)		債券 組入比率	債券 先物比率
	騰	落率	騰	落率		
(期首) 2014年8月13日	円	%		%	%	%
	10,044	—	10,041	—	91.0	—
8月末	10,044	0.0	10,041	0.0	88.0	—
9月末	10,044	0.0	10,042	0.0	92.9	—
10月末	10,045	0.0	10,042	0.0	92.2	—
11月末	10,046	0.0	10,043	0.0	87.4	—
12月末	10,046	0.0	10,044	0.0	97.5	—
2015年1月末	10,046	0.0	10,044	0.0	98.3	—
2月末	10,046	0.0	10,045	0.0	96.6	—
3月末	10,044	0.0	10,045	0.0	96.4	—
4月末	10,045	0.0	10,046	0.0	95.5	—
5月末	10,046	0.0	10,047	0.1	95.1	—
6月末	10,046	0.0	10,047	0.1	92.4	—
7月末	10,046	0.0	10,048	0.1	97.5	—
(期末) 2015年8月13日	円	%		%	%	%
	10,046	0.0	10,048	0.1	97.5	—

(注1) 騰落率は期首比。

(注2) 債券先物比率=買建比率-売建比率。

○第6期の運用経過等（2014年8月14日～2015年8月13日）
（当期中の基準価額の推移）

当期中の基準価額とベンチマークの推移
(2014年8月14日～2015年8月13日)



期首10,044円(2014年8月13日現在)でスタートした基準価額は、日銀の金融政策を背景として短期金利が、おおむね0%近辺で推移したことにより、ほぼ横ばいでの推移となり、当期末2015年8月13日は10,046円となりました。

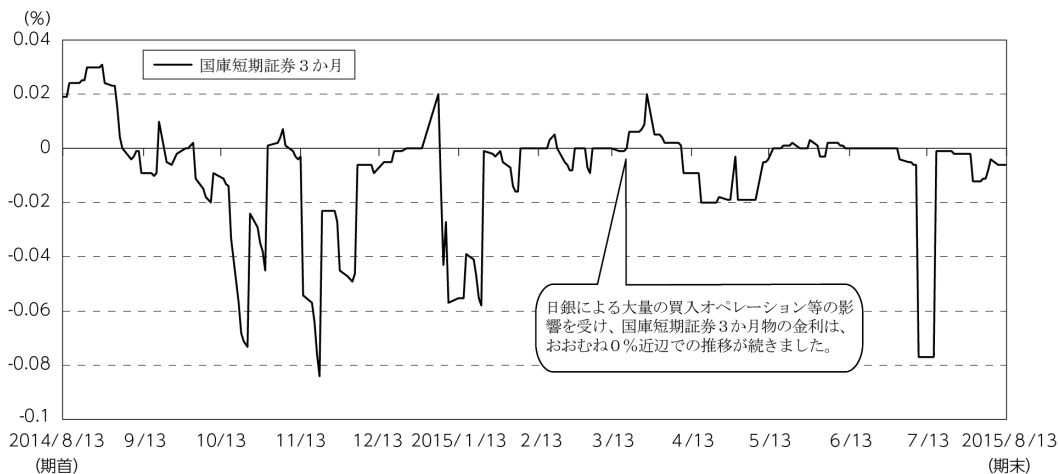
当該期間中における基準価額の騰落率は、0.02%となっています。

（ベンチマークとの比較）

当ファンドは、原則残存期間1年以内の国債を組み入れて運用しています。ファンドの利回りは、ベンチマークである無担保コール（オーバーナイト物）をやや下回る水準となっています。

(投資環境について)

(短期国債市場)



(出所：ブルームバーグ)

当該期間における国庫短期証券3か月物の金利は、日銀による大量の買入オペレーション等の影響を受け、おおむね0%を挟んだ水準での推移となりました。

(運用概況)

(運用経過)

当該期間を通じて短期国内債券の組入比率が高位となるように調整しています。また、無担保コール（オーバーナイト物）をベンチマークとし、ポートフォリオを構築しています。

なお、2015年8月13日時点におけるポートフォリオの修正デュレーションは0.28年、時価最終利回りは0.01%となっています。

(今後の運用方針)

当ファンドは、主として短期国内債券に投資することにより、長期的に安定した収益の確保を図ることを目的として運用を行うことを基本方針としています。

今後もこの基本方針に従い、運用を行います。

○1万口当たりの費用明細

(2014年8月14日～2015年8月13日)

該当事項はございません。

○売買及び取引の状況

(2014年8月14日～2015年8月13日)

公社債

		買付額	売付額
国		千円	千円
内	国債証券	80,366,749	78,942,401 (5,460,000)

(注1) 金額は受け渡し代金。(経過利子分は含まれていません。)

(注2) 単位未満は切り捨て。

(注3) ()内は償還による減少分で、上段の数字には含まれていません。

○利害関係人との取引状況等

(2014年8月14日～2015年8月13日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○組入資産の明細

(2015年8月13日現在)

国内公社債

(A)国内(邦貨建)公社債 種類別開示

区 分	当 期				末		
	額面金額	評価額	組入比率	うちBB格以下 組入比率	残存期間別組入比率		
	千円	千円	%	%	5年以上	2年以上	2年未満
国債証券	18,820,000 (5,220,000)	18,830,546 (5,220,654)	97.5 (27.0)	— (—)	— (—)	— (—)	97.5 (27.0)
合 計	18,820,000 (5,220,000)	18,830,546 (5,220,654)	97.5 (27.0)	— (—)	— (—)	— (—)	97.5 (27.0)

(注1) ()内は非上場債で内書きです。

(注2) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

(注3) 単位未満は切り捨て。

(注4) 一印は組み入れなし。

(注5) 評価については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータを入手しています。

しんきん短期国内債券マザーファンド ー第6期ー

(B)国内(邦貨建)公社債 銘柄別開示

銘柄	利 率	当 期 末		償 還 年 月 日
		額 面 金 額	評 価 額	
国債証券	%	千円	千円	
第536回国庫短期証券	—	800,000	799,999	2015/9/7
第538回国庫短期証券	—	400,000	400,000	2015/9/14
第540回国庫短期証券	—	1,520,000	1,520,001	2015/9/24
第541回国庫短期証券	—	2,000,000	2,000,004	2015/9/28
第332回利付国債(2年)	0.1	600,000	600,042	2015/9/15
第333回利付国債(2年)	0.1	2,000,000	2,000,320	2015/10/15
第334回利付国債(2年)	0.1	2,000,000	2,000,480	2015/11/15
第336回利付国債(2年)	0.1	3,000,000	3,001,230	2016/1/15
第337回利付国債(2年)	0.1	2,000,000	2,000,980	2016/2/15
第93回利付国債(5年)	0.5	4,000,000	4,006,840	2015/12/20
第272回利付国債(10年)	1.4	500,000	500,650	2015/9/20
合 計		18,820,000	18,830,546	

(注) 額面・評価額の単位未満は切り捨て。

○投資信託財産の構成

(2015年8月13日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
公社債	千円 18,830,546	% 97.5
コール・ローン等、その他	486,077	2.5
投資信託財産総額	19,316,623	100.0

(注) 評価額の単位未満は切り捨て。

しんきん短期国内債券マザーファンド ー第6期ー

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2015年8月13日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	19,316,623,966
コール・ローン等	477,701,024
公社債(評価額)	18,830,546,720
未收利息	7,869,374
前払費用	506,848
(B) 負債	0
(C) 純資産総額(A-B)	19,316,623,966
元本	19,229,128,790
次期繰越損益金	87,495,176
(D) 受益権総口数	19,229,128,790口
1万口当たり基準価額(C/D)	10,046円

(注1) 当親投資信託の期首元本額は25,056,838,691円、期中追加設定元本額は127,459,072,488円、期中一部解約元本額は133,286,782,389円です。

(注2) 当親投資信託を投資対象とする投資信託の当期末元本額は、しんきん225ベア・スペシャルV(適格機関投資家限定)8,699,980,096円、しんきん225ベア・スペシャルIV(適格機関投資家限定)3,961,616,680円、しんきん225ベア・スペシャルIII(適格機関投資家限定)3,237,203,108円、しんきん日経ターゲット115スペシャル(限定追加型)1,427,771,315円、しんきん日経ターゲット110スペシャル(限定追加型)901,836,048円、しんきんTOPIXベア・スペシャルV(適格機関投資家限定)477,802,112円、しんきん225ベア・ファンド318,856,129円、しんきん日経ターゲット115プラス(限定追加型)204,063,302円、しんきん公共債ファンド0.0円です。

(注3) 1口当たり純資産額は1.0046円です。

○損益の状況 (2014年8月14日～2015年8月13日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	32,295,840
受取利息	32,295,840
(B) 有価証券売買損益	△ 32,396,580
売買益	1,712,920
売買損	△ 34,109,500
(C) 当期損益金(A+B)	△ 100,740
(D) 前期繰越損益金	110,599,145
(E) 追加信託差損益金	574,927,512
(F) 解約差損益金	△597,930,741
(G) 計(C+D+E+F)	87,495,176
次期繰越損益金(G)	87,495,176

(注1) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 損益の状況の中で(E)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注3) 損益の状況の中で(F)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

<約款変更のお知らせ>

2014年12月1日施行の制度改正に対応するため、当該投資信託約款の記載内容の一部について所要の変更を行いました。(2014年12月1日実施)